

通し番号	4713
------	------

分類番号	26-24-12-02
------	-------------

生食用ナス‘サラダ紫’の露地夏秋栽培における仕立て法と収量及び着果特性	
[要約] 生食用ナス‘サラダ紫’は、露地夏秋栽培において慣行のU字3本仕立、U字4本仕立、垂直3本仕立のいずれの仕立て法でも9.0t/10a程度の上果収量が得られる。U字3本仕立は果実を収穫する際の側枝切り戻し位置の約7割が主枝地表から80cmまでに集中し、U字4本仕立や垂直3本仕立でより収穫位置が低い。	
神奈川県農業技術センター 生産技術部 野菜作物研究課	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

本県育成生食用ナス‘サラダ紫’の露地夏秋栽培における慣行のU字3本仕立に対し、U字4本仕立及び垂直3本仕立による収量性及び着果特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 露地夏秋作型において、慣行のU字3本仕立では総収量13.4t/10aである。また上果収量は9.0t/10a、上果率は65%である。U字4本仕立や垂直3本仕立でも同様である(図1、表1)。
- 2 栽培期間中の切り戻し回数を示す主枝部位別の側枝数及び側枝切断痕数はU字3本仕立の場合、側枝数割合の45%が主枝の下位(80cm以下)に位置しているが(図2)、全側枝切断痕に対する下位側枝の切断痕割合が70%以上であり、切り戻しの過半数は下位である(図3)。これに対してU字4本仕立や垂直3本仕立の主枝80cm以下から発生する側枝の切断痕割合は約55%程とU字3本仕立でより収穫位置が高い。

[成果の活用面・留意点]

- 1 側枝切り戻し時は、側枝の第1花の下の脇芽は摘除し、収穫と同時に2節下の直上で切り戻し、切り戻した部位から成長した脇芽を次の側枝とする。また第1花直上葉での切除は9月下旬までとする結果である。
- 2 各仕立て法の10aあたり本数はU字3本仕立と垂直3本仕立では758本、U字4本仕立では568本である。
- 3 U字4本仕立や垂直3本仕立にすることでしゃがみ姿勢での作業が少なくなることが期待できる。

[具体的データ]

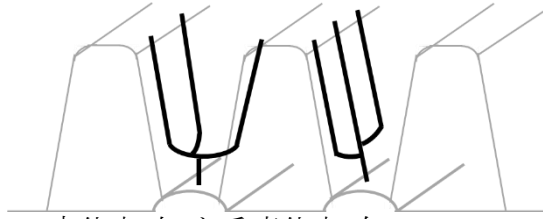


図1 U字仕立(左)と垂直仕立(右)

U字仕立では上図のように露地キュウリ支柱を用いて株の枝をU字になるように両側の支柱に枝を振り分ける方法。垂直仕立では支柱に沿って支柱の列の平行方向に枝を仕立てる方法で別名一文字仕立・垣根仕立。

表1 露地夏秋作型におけるナス‘サラダ紫’の仕立て方・主枝本数別の収量と下果種類別割合²

品種	総収量(t/10a)			上果収量(t/10a)			株当たり収量						上果率(%) ^x							
							果数			重量(kg)										
	U字仕立 3本	垂直仕立 4本	3本	U字仕立 3本	垂直仕立 4本	3本	U字仕立 3本	垂直仕立 4本	3本	U字仕立 3本	垂直仕立 4本	3本	U字仕立 3本	垂直仕立 4本	3本					
サラダ紫 ^y	13.4	12.8	13.7	ns ^y	9.0	9.3	9.4	ns	159	198	158	ns	17.7	22.6	18.1	ns	65.2	70.9	68.5	ns
千両二号 ^y	13.9			10.9			144			16.8			76.9							

品種	総収量に占める下果種類別割合(%) ^x															
	奇形			色むら			虫害			傷						
	U字仕立 3本	垂直仕立 4本	3本	U字仕立 3本	垂直仕立 4本	3本	U字仕立 3本	垂直仕立 4本	3本	U字仕立 3本	垂直仕立 4本	3本				
サラダ紫	20.2	15.7	17.1	ns	5.8	4.0	5.1	ns	2.2	1.7	1.5	ns	6.6	7.7	8.9	ns
千両二号	15.7			0.6			0.5			6.1						

²2014年5月1日定植。2014年5月26日から同10月13日までの累計値。^ynsは有意差なしを示す。^x果数率、アークサイン変換後統計解析

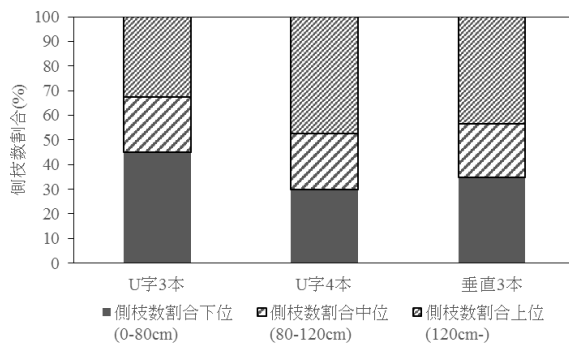


図2 露地夏秋作型における‘サラダ紫’の仕立て方別の主枝部位別側枝数割合

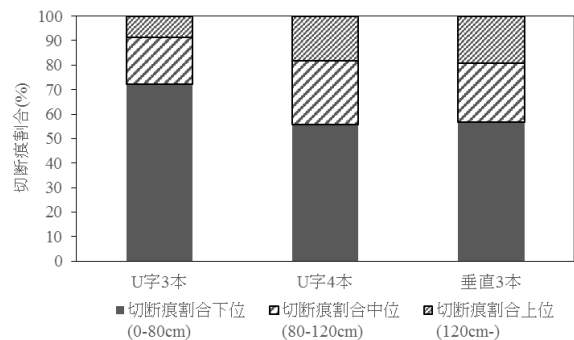


図3 露地夏秋作型における‘サラダ紫’の仕立て方別の主枝部位別切断痕割合

[資料名] 平成26年度試験研究成績書 野菜

[研究課題名] 「ナス‘サラダ紫’の露地夏秋作型における仕立て法の検討」

[研究期間] 平成26年度

[研究者担当名] 上西愛子

[協力・分担関係] なし